お誓いについて　太祖瑩山禅師の誓願（一）

（大本山総持寺梅花流壇信徒講習会にて）

大船渡市・安養寺住職・葛西修哉

一、お誓い

お誓いの根拠は「三聚浄戒～さんじゅじょうかい」。「聚」は集める・集まるの意味。浄戒は清浄にさせる仏教の戒め。戒は自発的なもの、律は教団の規律。

「三聚浄戒」は菩薩戒の特色を表す概念で華厳経に由来する。本来、戒は止悪、修善、利他の三種の動きがあるとする大乗の立場からの観察、意義づけであったが、後に三種それぞれの徳目を列挙するようになった。

「三聚浄戒」つまり「摂律儀戒」「摂善法戒」「摂衆生戒」であるが、太祖瑩山禅師の「佛祖正伝菩薩戒教授文～常済大師全集 P747」では以下の如し

【通常の解釈とは異なると思われる～高祖の教えに通じる】

～それ諸仏の大戒は、諸仏の護持するところなり……阿耨多羅三藐三菩提を称して仏宝とす。清浄離塵なるは法宝なり。和合功徳は僧宝なり。

天上を化し人間を化し、あるいは虚空に現し、あるいは塵中に現するすなわち仏宝なり……

あるいは海蔵に転しあるいは貝葉に転して、ものを化し生を化する法宝なり。

一切の苦をわたし三界の宅をもぬくる、すなわち僧宝なり

帰依仏宝僧宝と称するとき諸仏の大戒を得するなり～

摂律儀戒（しょうりつぎかい）諸仏法律を窟宅とするところなり。諸仏法律の根源とする所なり。

諸仏の説かれた法や律の窟宅（すみか・家、大切なもの）とするもの、諸仏の説かれた法や律の根本とする教えという意味。

止悪で決められた規律を順守する、自己を中心とした捉え方に立つ「正しい信仰に生きる」「三宝御和讃～1番の歌詞に該当」

摂善法戒（しょうぜんぼうかい）三藐三菩提の法、能行所行の道なり

無上の悟りの道。修行する者も修行される法も一体となった姿。法によって、修行させていただいている状況。

進んで善を行う点において自己と同時に、他との関り合いを重んじる「仲よい生活」～自分を抑止し、他を思う心と実行が伴う。

「三宝御和讃～2番の歌詞に該当」

摂衆生戒（しょうじゅじょうかい）凡をこゑ聖をこゑて自を度し侘を度すなり。これを三聚戒となつく。凡聖の区別なく、自利利他に精進すること。

利他は「自未得度先度他」、自利はそのことによって自分自身が救われる。佛祖の教えの自利利他を実践することは、この世を明るくすること。

全く他を自己の中心に捉えて、これを教化救済する「明るい世の中をつくる」「三宝御和讃～3番の歌詞に該当」

二、四弘誓願文（しぐせいがんもん）との関連

①衆生無辺誓願度（しゅじょうむへんせいがんど）

②煩悩無尽誓願断（ぼんのうむじんせいがんだん）

③法門無量誓願学（ほうもんむりょうせいがんがく）

④仏道無上誓願成（ぶつどうむじょうせいがんじょう）

①この世に生けるものは限りないが、仏様の世界に渡そう

②尽きることのない煩悩を断ち、滅していこう

③仏様の教えは量り知ることが出来ないものであるが、学び身につけていこう

④この上もない仏の道を、必ず成就しよう～

摂律儀戒～②煩悩無尽誓願断＝煩悩を断ずる

摂善法戒～③法門無量誓願学＝法門を学ぶ

④仏道無上誓願成＝仏道の完成

摂衆生戒～①衆生無辺誓願度＝衆生を救う

上求菩提下化衆生（じょうぐぼだいげけしゅじょう）との関連では上求菩提～摂律儀戒摂善法戒

下化衆生～摂衆生戒となろうか。高祖～諸悪莫作・七仏通悔の偈と同じ意味。

（次回に続く）